

建て替えの市民会館アンケート

市民半数「利用なし」

苫小牧市は、老朽化が進む市民会館（旭町）の建て替えに向けて市民を対象に行ったアンケートの結果の一部を公表した。市民の2

人に1人は市民会館を利用しておらず、約3割は市内の公共施設を余り使っていない現状がうかがえた。市は、市民会館を近隣の公共施設と統合し「市民ホール」として新築する方針で、アンケート結果も参考にしながら、市民にとって魅力のある新施設を目指す。

アンケートは、市民会館の利用実態や新施設に求められる規模・機能を把握するため、市が3～4月、市民2500人を無作為に抽出して郵送、770人から回答を得た（回収率30・8％）。「よく利用する公共施設」

（複数回答）で、最も多かったのが「中央図書館」で36・1％。次いで「コミュニ



「市民ホール」の基本構想について話し合った第2回建設検討委員会（3日、苫小牧市役所）

ニティーセンター」が27・5％、「市民会館」は24・5％。一方で28・6％は「ない」と答えた。

市民会館については「利用したことがない」「3年以上利用していない」を合わせると49・3％に上った。「利用する」とした人のうち、利用頻度は「年1～2回程度」が最多だった。

市民ホールについては、現在、有識者らでつくる建設検討委員会が基本構想について議論している。3日にあった第2回会合ではアンケート結果を踏まえ、委員から「目的がなくても滞在できるような居場所に」「交通の便が良く、遅い時間まで開館しているなど『来やすさ』が重要」などの意見が出た。（細川智子）

